

令和3年度
学校評価書(中間期)

愛南町立御荘中学校



愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その1

令和3年度中間期(7月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評定 (比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4	3	2	1	?	%	4・3の割合									
													0	50	90							
I 個を大切に した生徒指導 の充実	①	いじめ・不登校防止	いじめ・不登校の防止や解消に向けた教育活動が実践されている。	中間期 A	◇回答の肯定率が生徒は9割、教職員が10割と目標値に達しているため、評定をAとした。しかし、生徒の回答に評価2・1があるので、まだ十分とは言えない。また、今年度新規の不登校生徒もいるため、家庭と連携し粘り強く対応していく必要がある。	生徒2-3	63	27	9	1	0	90	[Bar chart showing 4 and 3 ratios]									
			【目標値】 生徒・保護者・教職員の9割以上が肯定	◆いじめ対応では、毎月実施の「学校生活アンケート」や「心と体の健康チェックカード」による実態把握と個別の対応に継続して取り組んでいく。不登校生徒については、学年部で本人や家庭に寄り添った対応をし、養護教諭やSC、SSWと連携した相談体制を整え、生徒や家庭の不安を取り除いていく。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・学校生活アンケート ・教育相談による情報																	
	②	楽しい学校生活	教師と生徒、生徒相互の好ましい人間関係・信頼関係が育まれ、生徒は楽しく学校生活を送っている。	中間期 A	◇回答の肯定率が生徒は8割、保護者は9割を超えているため、評定をAとした。また、3年生の修学旅行や1年生の集団宿泊研修では、生徒相互の思いやりや周囲への気遣いなどに成長が見られた。	生徒1-1	62	27	8	3	0	89	[Bar chart showing 4 and 3 ratios]									
【目標値】 生徒・保護者・教職員の8割以上が肯定			◆2学期は体育祭や文化祭、2年生の修学旅行などの行事を通しての人間関係・信頼関係づくりに取り組んでいく。また、日常の学習活動や部活動においても、生徒の主体的な活動を促し、教師と生徒、生徒相互の人間関係・信頼関係を構築していく。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・学校生活アンケート																		
③	生徒の主体性を生かす活動	生徒の主体性を生かした、生徒会活動や学校行事が実践されている。	中間期 A	◇生徒・保護者・教職員の8割以上が肯定しているため、評定をAとした。評価4(全くそう思う)の割合は、生徒が一番高く、生徒会活動や学校行事に前向きに取り組んでいると考えられる。今年度は、リモートの集会を実施しているが、自分の席で集中して視聴する姿が見受けられた。また、修学旅行(3年生)や集団宿泊研修(1年生)などの行事においても、主体的な面が多く見られた。	生徒1-10	48	41	11	1	0	89	[Bar chart showing 4 and 3 ratios]										
			【目標値】 生徒・保護者・教職員の8割以上が肯定	◆企画会・職員会等で教職員が事前に話し合い、計画案を立てることで、生徒の自主的・主体的な活動を支える体制を整えていく。また、3年生を中心としたリーダーの育成に努め、自分たちで学校行事を作り上げたという達成感を味わわせることのできる行事の企画・運営を行う。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・各行事後のアンケート																	

【学校運営協議会における意見・提案等】

- 基本的には、中学生らしい言動が保持出来ている感じがする。一方挨拶がよく取りざたされるが、挨拶は心の表現の一つであり、全ては生活習慣の影響が強いと思われる。
- 学校要覧での生徒数167名、アンケートの総数は、166名。1名の無回答が不登校の数と一致するのであれば納得なのですが、もしも不登校の数が1名より多い場合、学校に来ることがつらい生徒にアンケートを書いてもらうのは、より精神的にしんどいのではないのでしょうか。
- 学校に来るのがあまり楽しくないと感じている生徒が一定数いるので、そこに目を向けていく必要がある。



愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その2

令和3年度中間期(7月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評定 (比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4	3	2	1	?	%	4・3の割合									
													0	50	90							
II 確かな学力の定着と向上	④	主体的・対話的で深い学び	主体的・対話的で深い学びを目指す、ねらいを明確にした分かる授業を実践している。	中間期 A	◇生徒・教職員共に9割以上が肯定的な回答であった。各教科で課題設定を工夫し、生徒が興味・関心を持って主体的に考え、協力して学ぶ活動を取り入れることを意識してきた。また、どの生徒も活躍できる授業を目指して、ジグソー法等の思考を深めるツールを活用することで、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した実践の結果であると考える。 ◆「対話的な学び」に重点を置いて授業改善に努めている。生徒は立場を明確にし、根拠や理由を分かりやすく説明することに留意させることで、少しずつ慣れてきている。練り合いや考えを深める場の設定を、教師が意識して行いたい。「主体的・対話的で深い学び」を実現するための基礎学力の定着のために、各教科で小テスト等を継続して行う。	教職員2-1	20	75	5	0	0	95										
			【目標値】 教職員・生徒の8割以上が肯定																			
	<自己評価アンケート以外の評価材料> ・研究授業や各種研修への取組																					
⑤	主体的な研修・自己研鑽	研修や自己研鑽に主体的に取り組み、生徒一人一人に「学びに向かう力」を育て、きめ細かな学習指導、基礎的・基本的な事項の定着を図っている。	中間期 A	◇クロームブックの導入に伴い、ICT機器の活用にも努めているだけでなく、よりよい活用法を探って研修や自己研鑽に取り組んでいる。それにより、生徒が興味を持ち、生徒にとって分かりやすい授業が展開されていると考える。基礎的・基本的な学習については、各教科で小テストの実施や個別に再テストを行うことにより学力の定着に努めている。 ◆ICT機器のより効果的な活用の模索を継続して行う。「学びに向かう力」を育てるためにも、生徒の学習環境を整えることや提出物を期限内に出す等の基本的な生活習慣の徹底を図る。	教職員1-2	20	75	5	0	0	95											
		【目標値】 教職員の8割以上が肯定																				
<自己評価アンケート以外の評価材料> ・研究授業や各種研修への取組 ・各教科での基礎的・基本的な事項を図る取組																						
⑥	家庭学習習慣	主体的な家庭学習の習慣が身に付いている。	中間期 B	◇肯定率が生徒は81%、保護者は69%であるため、B評定とした。生徒と保護者の肯定率に差があることから、保護者はもっと学習してほしいと望んでいることが伺える。自主学習ノートへの取組や定期テストに向けての取組が効果的であったと考える。 ◆例年この項目はB評価となっており、生徒と保護者の肯定率の差を埋めることは難しいと感じる。今後、効果的な学習になっているかを生徒に振り返らせ、学習内容の質や量について改善していく機会を設けることや、その取組を考察することが必要であると考え。	生徒1-2	32	49	16	3	0	81											
		【目標値】 生徒・保護者の8割以上が肯定																				
<自己評価アンケート以外の評価材料> ・家庭学習時間調査 ・自主学習ノートの取組																						

【学校運営協議会における意見・提案等】

○目的意識を持って学習に取り組む生徒も増えつつある。一方進路については、自己実現を図るために今以上に切磋琢磨して希望が叶えられるように頑張ってもらいたい。
 ○教師と生徒の信頼関係を深め、分かる授業の取組に尽力してほしい。全般に充実した取組が出来ている感じがします。
 ○クロームブックの導入に伴い、先生方は効果的な指導方法の研修やその下準備、改善、フォローと今まで以上に時間が必要となっているのではないのでしょうか。とても大変なことだと思います。ですが、今まで勉強が苦手だった生徒が、ICT機器を使うことによって興味を持ち、進んで学ぶことを始めるかもしれません。すべてが目新しい今が学習への興味をつかむ時かもしれません。軌道に乗るまで数年大変かもしれませんがよろしくお願いたします。



愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その3

令和3年度中間期(7月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値(期待される姿)	評定(比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4	3	2	1	?	%	4・3の割合					
													0	50	90			
III	⑦	気持のよい言動	時と場に応じた気持ちのよい挨拶ができ、中学生らしい言動がとれる生徒が育っている。	中間期 A	◇生徒・保護者ともに肯定率が8割を超えており、A評定とした。しかし、4の回答率は、生徒より教職員、保護者、地域が低くなっていて、「気持ちのよい挨拶」等の捉え方に違いがあると感じる。生徒会執行部による朝の挨拶運動は継続して行われているが、声の大きさや表情など個人差が大きい。1年生は、入学時に比べて気持ちのよい挨拶が身に付いてきた生徒が増えた。また、学年が上がり、気持ちのよい挨拶や応答ができるようになった生徒も見られたが、全体的にも個人差がある。	教職員3-3	25	65	10	0	0	90						
			【目標値】 教職員・生徒・保護者・地域の8割以上が肯定	◆学級や部活動、ブロック活動等の様々な集団において、挨拶の意義や中学生らしい言動について、考え実践できるようにしていく。また、伝統となっている挨拶運動を要として、挨拶によって気持ちよく1日がスタートできるように教職員も含めてそれぞれが意識して取り組んでいく。	生徒1-5	51	41	7	2	0	92							
		【目標値】 教職員・生徒・保護者・地域の8割以上が肯定	◇生徒・保護者ともに肯定率が8割を超えており、A評定とした。昨年度から継続して、「あったかほっこりエピソード」や「いじめ追放宣言」、「いじめ対策委員会」等を行い、人権意識の向上を目指してきた。いじめ対策委員会では、少しではあるが思いやりや配慮に欠ける言動があることも確認できているため、個別の指導等を含めた対応が必要である。保護者の?が40もあり、保護者への啓発が不十分である。	保護者1-2	32	59	9	0	0	91								
						地域1-1	28	62	10	0	5	90						
						〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・生徒の日常の様子 ・生徒の挨拶運動の状況												
III	⑧	人権尊重・心の通い合い	心が通い合い、互いの人格や人権を尊重した学校づくりがなされている。	中間期 A	◇生徒・保護者ともに肯定率が8割を超えており、A評定とした。昨年度から継続して、「あったかほっこりエピソード」や「いじめ追放宣言」、「いじめ対策委員会」等を行い、人権意識の向上を目指してきた。いじめ対策委員会では、少しではあるが思いやりや配慮に欠ける言動があることも確認できているため、個別の指導等を含めた対応が必要である。保護者の?が40もあり、保護者への啓発が不十分である。	生徒1-9	37	50	11	2	0	87						
			【目標値】 生徒・保護者の8割以上が肯定	◆人権委員会が中心となって取り組んでいる「あったかほっこりエピソード」の掲示や放送、心の教育部会が取り組んでいる体育祭後や卒業前の「ありがとうメッセージ」や短い手紙等による伝える活動を継続して行っていく。また、昨年度の学校運営委員会で提案していただいた「教師からのありがとうメッセージ」も行い、学校全体でそれぞれが認め合い、感謝し合い、尊重される環境・雰囲気づくりに取り組んでいく。また、人権たより等を利用し、保護者への啓発をしていきたい。	保護者2-3	20	70	8	3	40	89							
		【目標値】 生徒・保護者の8割以上が肯定	◇教職員は3という回答が多いが、生徒とともに8割を超えているためA評定とした。教職員の3の回答の背景として、3学年を例に挙げると、昨年度実施できなかった修学旅行の準備・計画、コロナウイルス感染予防のための活動制限などがあったため、道徳の時間の確保が難しかった実情がある。各学年とも、十分な時間の確保ができなかったことが考えられる。															
						〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・生徒の日常生活の状況 ・学校生活アンケートの結果 ・いじめ対策委員会を通じての情報												
III	⑨	道徳教育の充実	道徳科の授業の充実が図られ、対話のある学びを通して、優しい心や道徳的実践力が育てられている。	中間期 A	◇教職員は3という回答が多いが、生徒とともに8割を超えているためA評定とした。教職員の3の回答の背景として、3学年を例に挙げると、昨年度実施できなかった修学旅行の準備・計画、コロナウイルス感染予防のための活動制限などがあったため、道徳の時間の確保が難しかった実情がある。各学年とも、十分な時間の確保ができなかったことが考えられる。	教職員6-1	25	65	10	0	0	90						
			【目標値】 教職員・生徒の8割以上が肯定	◆対話的な学びを実現させるための、学習用端末の効果的な活用などの課題も感じられる。道徳の時間を要として、道徳的実践力を身に付けさせるために日々の教育活動とのつながりを持たせることが求められる。	生徒2-5	57	35	6	2	0	92							
		【目標値】 教職員・生徒の8割以上が肯定	◇教職員は3という回答が多いが、生徒とともに8割を超えているためA評定とした。教職員の3の回答の背景として、3学年を例に挙げると、昨年度実施できなかった修学旅行の準備・計画、コロナウイルス感染予防のための活動制限などがあったため、道徳の時間の確保が難しかった実情がある。各学年とも、十分な時間の確保ができなかったことが考えられる。															
						〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・生徒の日常の言動や変容												

【学校運営協議会における意見・提案等】 ○挨拶の仕方は、人それぞれなので1つの型にはめ込まずになぜ挨拶があるのかを考えさせて、自分なりの挨拶を考えさせることが大切だと思います。数人の生徒が「挨拶をがんばる」と書いていますが、挨拶は頑張るものなのか？あまりそれを推奨すると声の小さい人＝がんばっていない人という図式ができてしまいそうな気がします。 ○教師からの「ありがとうメッセージ」はとても良いと思いました。それに加えて、保護者からも何か気持ちを伝えられる取組があればいいですね。 ○道徳の授業を一度見させて頂きましたが、活発な意見とざらざらした目線が記憶に残っています。普段の生徒とは違う、本当の自分をさらけ出したすばらしい一瞬を見た気がします。 ○道徳の項目の3の回答が多くなっているのは、何か理由があるのだろうか。 ○生徒達、先生方、「チーム御荘」で向上しようとする姿、読んでいてこちらも力が入りました。



愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その4

令和3年度中間期(7月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評定 (比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4	3	2	1	?	%	4・3の割合		
							0	50	90						
IV 健やかな体の育成と安全教育の推進	⑩	体力の向上	授業や部活動を通して、運動の習慣化と体力向上が図られている。	中間期 A	◇教職員・生徒・保護者とも8割以上が肯定しているため、評定をAとした。保健体育科の授業において、新型コロナウイルス感染症対策でランニングは取りやめたが、補強運動を引き続いて行ったことが、体力の向上の一つの要因だと考える。また、新体力テストの総合評価においても、A・B判定の割合が1年生34%2年生34.1%3年生53.4%であり、1,2年生の体力向上が課題である。	教職員7-1	20	70	10	0	0	90			
			生徒1-4	52	33	11	4	0	85						
	保護者2-4	30	62	7	1	12	92								
			【目標値】 教職員・生徒の8割以上が肯定		◆新体力テストの総合評価では、50m走・持久走・ハンドボール投げが種目別全国比較で低い割合を示している。今後は、現在実施している授業時の補強運動の見直しを全学年で行うとともに、部活動でもより効果的な実践を行い、「新体力テストの総合評価D・Eの生徒を、男子は20%未満、女子は10%未満にする。」という本校の体力アップ推進計画の指標をクリアしていく。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・新体力テストの結果									
	⑪	安全・安心な学校づくり	安全・防災教育の改善と充実を図り、生徒の命を守るためのあらゆる手立てを講じている。	中間期 A	◇生徒も教職員も9割以上が肯定しているためA評価。全校での避難訓練が2回であったが、それぞれの学年において防災学習を推進していることがこの結果に表れていると思われる。生徒は、地震時の身の置き方や避難時の冷静な行動等、自然と体が動いていると感じられる。	生徒2-6	78	19	2	0	0	98			
教職員7-2			55	45	0	0	0	100							
			【目標値】 生徒・保護者・教職員の8割以上が肯定		◆今年度は研究指定を受けていることもあり、新しい取組も計画している。また、各学年ごとに総合的な学習の時間を中心に防災学習を進めていく。その中で、大切な知識と実践力を身に付けさせるようにする。例えば時や場所など、考えられることを生徒自身が危機感を持って考え、学習や訓練に取り組めるように工夫をしなければならない。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・毎月の避難訓練の様子 ・防災学習									
	⑫	基本的生活習慣の定着	生徒自身による「早寝・早起き・朝ごはん」等、基本的な生活習慣が定着している。	中間期 B	◇保護者の評定は8割を超しているが、生徒の評価が8割に満たないため評定をBとした。保護者の評価はここ4年間の間では一番肯定の割合が高くなってきている。生徒の評定と比較すると、保護者が生徒の生活習慣に関心が薄くなっているのではと思われるような結果となった。毎月の健康チェックでも夜11時以降まで起きている生徒も3割程度見られる。メディアの使用時間が長く、そのことが就寝、起床、朝ご飯などに起因していると考えられる。	生徒1-7	39	39	14	8	0	78			
保護者1-4			42	46	11	1	0	88							
			【目標値】 生徒・保護者の8割以上が肯定		◆メディアの使用については、1学期に生徒に考えさせ、今年度全校生徒で守っていく内容を決定したので、そのことを委員会・生徒会を中心に組み立てる。学校だけでは難しい問題なので、保護者の協力を得られるよう工夫も必要である。就寝時間や朝食を食べてこない生徒は固定化しているため、健康チェック時において、chromeでの生徒への効果的な個別的働きかけを工夫し継続して行う。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・生活チェックカードの結果									

【学校運営協議会における意見・提案等】 ○体力に関しては、成長期であり骨の成長に筋肉が間に合わない時期なのでいろいろと故障しがちですが、先生方は大変だろうし、当の本人も長期に渡ってつらい時期を過ごす事になりかねないので、細心の注意が必要ではないかと思えます。 ○生徒は、今まで以上に防災に関することに興味や知識を深めている。今後、それが薄れることのないように防災学習を推進していただけたらありがたい。 ○あらゆる角度から、命を守ることの大切さを学ぶ「永遠のテーマ」ですが、楽しく学べるように共に考えていきます。 ○保護者が生徒の生活習慣に関心が薄く・・・とあるが子どもでも一人一台スマホやPCを持つ時代なのでその流れは今後ますます進んでいくのが目に見えています。その中で地域や学校、大人、社会がどのように対応していくかが重要で、これからさらに問われてくることになりそうです。子どもたちを巻き込んだ知恵の出し合いが必要です。



愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その5

令和3年度中間期(7月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評定 (比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4	3	2	1	?	%	4・3の割合									
							0	50	90													
V 家庭や地域との連携による特色ある学校づくり	⑬	地域とつながる教育	「人」や「仕事」など、地域とのつながりを生かした教育活動に工夫して取り組んでいる。	中間期 A	◇教職員・地域共に目標値を上回っているため、評定をAとした。今年度は1学期に、総合的な学習の時間の取組として3年生は昨年度から延期になっていた修学旅行、2年生は修学旅行の調べ学習と福祉学習、1年生は集団宿泊研修に向けての学習等を行い、訪問する地域や活動に関わる各地域の人々とのつながりを持つことができた。また、コロナウイルス対策で、学校外でのボランティア活動などにはあまり参加できなかった。 ◆2学期以降も、コロナウイルスの感染状況に注意しながら、体育祭や文化祭等の各行事やボランティア活動において、できる範囲で、地域の「人々」とのつながりを意識させながら取り組んでいく。特に、地元の自主防災組織との連携を図り、生徒たちにできることを考えさせていきたい。その際、生徒や保護者、教職員にとって過度な負担とならないよう、工夫しながら実践していく。	教職員4-2	35	60	5	0	0	95										
			【目標値】 教職員・保護者・地域の8割以上が肯定																			
	⑭	特別支援教育の充実	特別支援教育の充実が図られ、関係機関との連携を図った教育的ニーズ対応した教育が実践されている。	中間期 A	◇保護者、教職員ともに肯定評価が8割を超えたため、A評定とした。個別の指導計画を作成し、学年会や職員会議などで支援を要する生徒への理解と対応について共通理解を行った。また、関係する保護者・諸機関を交え、校内教育支援委員会を開催し、今後の支援体制や取組について話し合った。これらの取組が、関係諸機関や教職員・保護者にも正確に伝わっていると思われる。 ◆個別の指導計画を更に有効に活用するため、教職員で共通理解を図り、研修を進める。授業においては、合理的配慮の視点から誰にでも分かりやすい授業づくりを目指し、生徒に対応する支援員も授業によって入れ替わるなど、弾力的な対応をする。また、非常勤講師(中一ギャップ)による生徒の状況に応じた効率的な支援を今後も継続して行う。	保護者2-3	20	70	8	3	40	89										
【目標値】 保護者・教職員の8割以上が肯定																						
	⑮	学校開かれた学校づくり	保護者や地域の意見・願いを幅広く聞くとともに、学校の取組や生徒の様子を積極的に公開するなどして、家庭・地域と連携した開かれた学校づくりに努めている。	中間期 A	◇保護者・地域の9割以上が肯定的回答であるため、評定をAとした。学校・学年、各担当者から様々な「たより」が定期的に発行されていることや、HPの更新が毎日行われていること、クロームブックによる全校生徒への連絡・アンケート等で双方向のコミュニケーションが取れていることなどが、保護者の肯定的解答に表れている。 ◆保護者や地域の学校評価において、「？」の選択が多い学力向上への取り組みや特別支援教育の充実などの項目は、さらなる啓発が必要である。今後も、HPや学校・学年等からの各種たよりを使って、授業や休み時間の様子、学校行事、生徒会活動、部活動など、教育活動全般の様子を幅広く発信していく。また、各種たよりが生徒を通じて保護者の手に確実に渡っているか等の確認をしながら、更に家庭や地域との連携を図っていく。	保護者2-5	43	53	4	0	1	96										
【目標値】 ホームページ、各種たよりの保護者の閲覧率が8割以上																						

【学校運営協議会における意見・提案等】 ○コロナ禍であり、職場体験や地域行事など実施できない事も多くある中、学校行事やボランティアへの参加など工夫しながら実施できていると思います。評価として「？」が多い項目については、「家庭や地域との連携」について具体的に分かりにくいこともあるのではないかと感じます。学校だよりやHPの活用、公民館や社協との連携で多く発信していけると良いと思います。社協が実施した「夏休みボランティア学習」では、御荘中の生徒さんにも参加していただき、小学生のサポートやボランティアをしていただき、大変助かりました。これからも地域と学校を「つなぐ」機会や企画を増やしていきたいと思っています。 ○3項目とも高い評価となっており、先生方をはじめ学校全体が高い意識を持って課題に対して真剣に取り組まれていることが伺えました。